

## 霧島硫黄山火山ガス組成変化（2019 年 6 月 30 日まで）

霧島硫黄山 H 噴気孔近傍で、Multi-GAS を用いた火山ガス組成連続観測を実施している（図 1）。6 月以降の連続観測結果では、 $\text{SO}_2$  濃度および  $\text{SO}_2/\text{H}_2\text{S}$  比の急増が認められる（図 2）。同様の変化は、2018 年 4 月の噴火前にも認められている。

ただし、5 月 16 日の現地観測では、従来は湯だまりであった Pa、Pb、V1 のお湯がほとんどなくなっており、ガスのみを放出する状況に変化していた。観測されたガス濃度や組成の変化が、地下からの供給の変化ではなく、地表の湯だまりの状況の変化に起因する可能性もある。

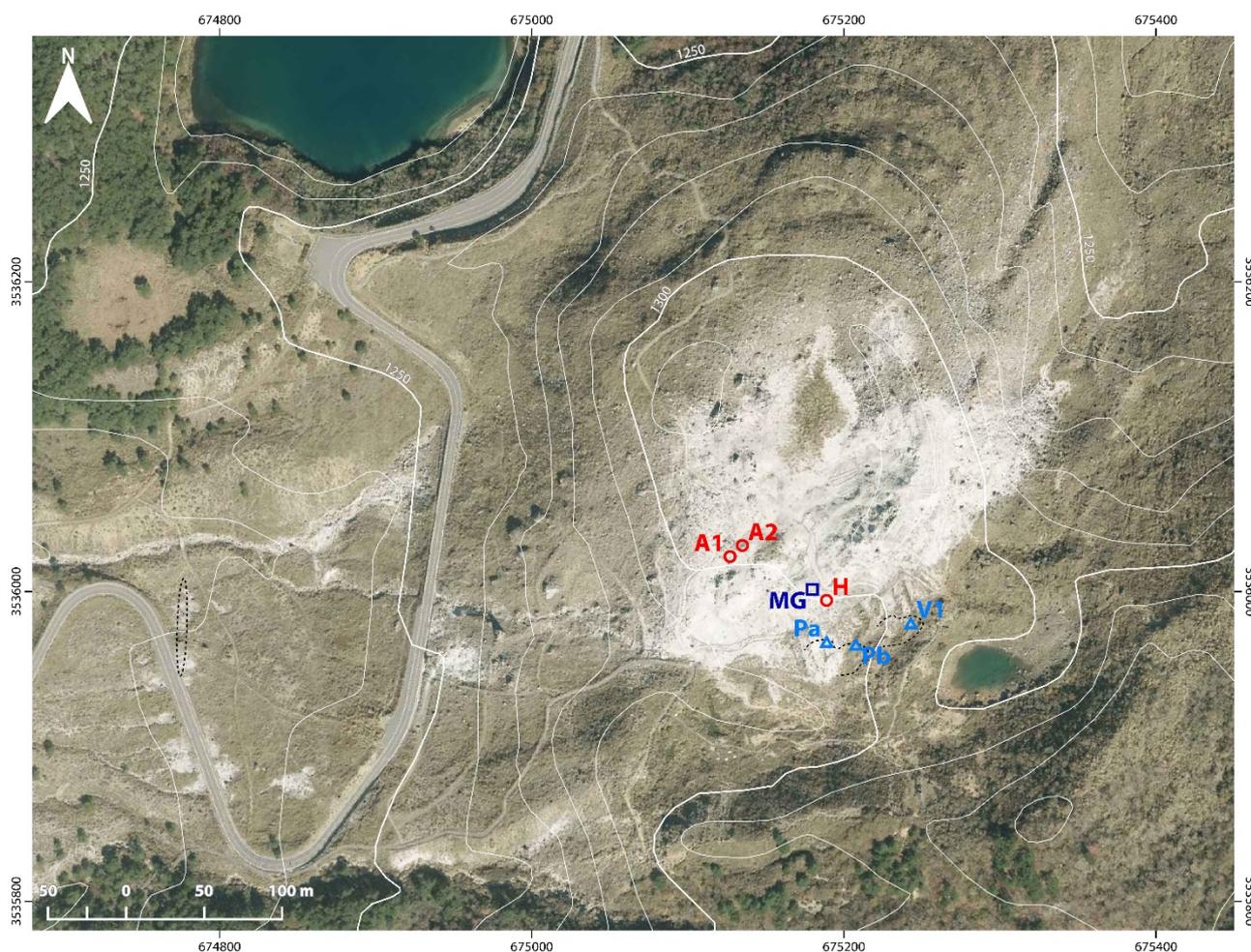


図 1 霧島硫黄山観測点配置図。MG は連続観測点，H，A1，A2，Pa，Pb，V1 はそれぞれ噴気孔および湯だまりに対応する。背景には、国土地理院の空中写真および数値標高モデル 10m メッシュ（火山標高）を使用した。

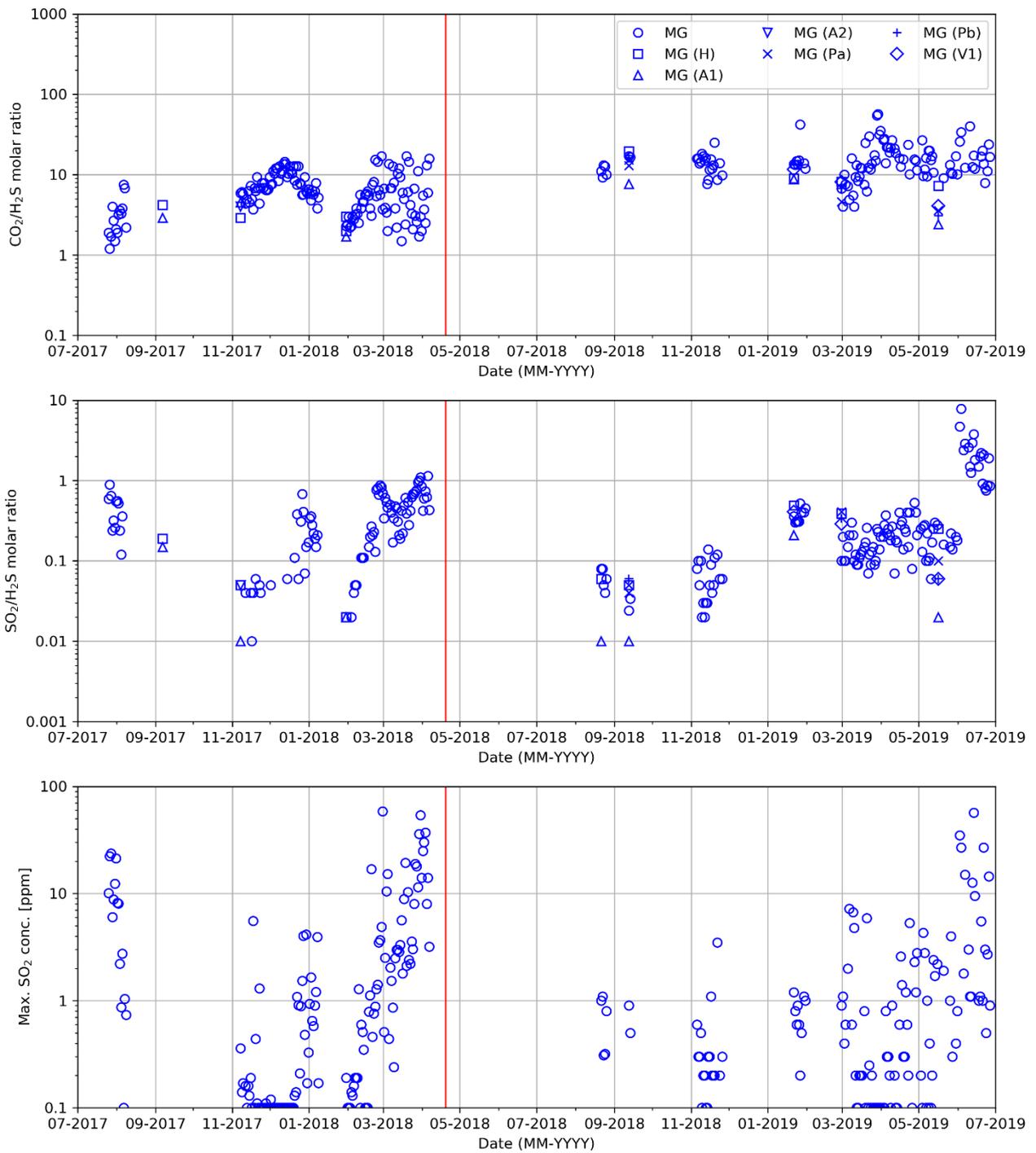


図2 霧島硫黄山火山ガス組成観測結果。順に、上)  $\text{CO}_2/\text{H}_2\text{S}$  比, 中)  $\text{SO}_2/\text{H}_2\text{S}$  比, 下)  $\text{SO}_2$  濃度最大値。凡例のうち、丸印は連続観測結果, それ以外のシンボルは現地観測結果 (各噴気孔および湯だまりの値) に対応する。赤の縦線は2018年4月19日の噴火に対応する。